

令和3年9月13日
株式会社スカパー・エンターテイメント
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

FOX チャンネル 番組審議会議事録

- ・日時 令和3年7月
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面にて開催
- ・参加者 審議委員総数 8名
参加委員数 8名

(参加委員名)

- 委員長 山田 顕喜 (日本大学芸術学部映画学科元教授)
- 副委員長 前田 耕作 (生涯教育新聞社代表)
- 委員 木下 美子 (元青山学院初等部英語教諭)
- 委員 土屋 礼子 (朝日新聞社 取締役)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 藤田 興彦 (公益法人児童育成協会参事)
- 委員 三枝 幹夫 ((株)オリコンME WEB 編集本部 ORICON NEWS 編集部 編集長)
- 委員 阿部 京子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)

(放送事業者・番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- 小林 信一 (エグゼクティブ ディレクター チャンネル、サービス
ディストリビューション&コンテンツアクイジション)
- 藤 慶英 (メディア戦略 シニアマネージャー)
- 伊藤 由起 (編成 ディレクター)
- 高橋 朋美 (編成 マネージャー)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー)

- ・議題 (1) FOX チャンネルの番組編成について
(2) 審議番組「アメリカズ・ゴット・タレント」について

・議事内容

(以下、* : 委員からの意見・質問、→ : ディズニーの説明・回答)

(1) FOX チャンネルの番組編成について

→7月6日(火)より「NCIS ～ネイビー犯罪捜査班」 シーズン18を日本初放送。
→24日(土)から「ボディ・オブ・プルーフ/死体の証言」全シーズン一挙放送。
→毎週土曜日映画枠のイチオシ作品は、「海を飛ぶ夢」。

→8月の2日(月)よりFOX最熱ドラマ第1弾:「24-TWENTY FOUR-」192話一挙放送。
→26日(木)より「9-1-1」:LA救命最前線 シーズン4を日本初放送。
→毎週土曜日映画枠のイチオシ作品は、「人生タクシー」。

(2) 審議番組「アメリカズ・ゴット・タレント」について

放送概要:

2021年5月9日(日)より放送開始。

約60~120分×全25話(シーズン第15期)

番組内容:

全米人気の公開オーディション番組。歌やダンスの正統派から、手品や仮装、一発芸など度肝を抜く変り種パフォーマンスまで、ありとあらゆる「才能」が集結。一攫千金を狙う玉石混合の挑戦者たちが繰り広げる予想外のステージは、自由の国アメリカならではのショービズの原点かもしれない?!

年齢もジャンルも無制限。常識を覆す当代最高のエンターテイナーの誕生まで目が離せない。

→パフォーマーがそれぞれの事情を抱えながら挑むパフォーマンスに、視聴者も緊張感を感じる。そして、次のステージ通過の喜び、落第の悔しさに誰もが共感できる。

→台本どおりには進まないハプニングがありが笑いを誘い、審査員の厳しくも温かいコメントなどもあり、活力が沸く内容。

*マジックや奇術も見事で、良質なファミリー向けエンターテインメント

*刃物を使うパフォーマンスはハラハラさせられお茶の間での反応が少し気になる。

*それぞれのパフォーマーと審査員たちとの対話のやり取りが面白い。

*もはやただのエンターテインメント番組ではなく、社会的意義や影響力がある。

*人種や職種や階層などを見ると、出演者のバックグラウンドはじつに多種多様。

*出場者がそれまでの人生をどう生きてきたか、背景を見せてくれるので、ストーリー性も高い。

*出場者の中には、人生の終末を穏やかに迎えようとしている人もいれば、一方では無実の

罪で37年間も服役させられた人も登場したり、それまで不遇だった人がようやくチャンスを手にするという姿がとても印象的。

*登場した警察官の二人は、出演当日のステージが初めてのセッションであったにもかかわらず成功させたが、多くを語らずとも思いは通じるということだと思ふ。彼らの歌を聞けば、どういう人生を生きてきたのかが分かる。彼らのパフォーマンスに、人生そのものが表現されている。

*教育的価値も高い

*もちろん番組としても純粋に楽しめた。

*全米規模というのはすごいと思う。オーディションの規模にまず圧倒される。

*豚が登場するショーでは、審査員たちも動物に対して愛情たっぷり接していて、優しいまなざしでパフォーマンスを見守っているのが印象的。

*審査員たちの温かいメッセージに胸が熱くなる。

*コロナ禍という試練を受けさせられている私たちに、人間のすばらしさやあらゆる可能性を見せてくれる。

*「チャンスが与えられている」ことが素晴らしい。

*努力を重ねた人たちに報われる場を提供し、正しく評価されているところに非常に感銘を受けた。審査員たちの愛情あふれる人間性にも大変感動した。

*このシリーズは以前から見ていたが、あらためてこれはドキュメンタリー&ドラマなのだと思った。

*出番を待つ参加者たちのドキドキの盛り上がりとか、素敵なドラマになっていた。

*アメリカと日本ではまた感覚や求められるものが異なる部分もあるので、共感がわきにくいところもあるかと思うが、ちゃんと笑えるように作られているので、エンターテインメントとして、大いに楽しんでいるのだと思う。

*もっと地道に夢に向かって日々頑張っている人もいるので、なかなか見えにくい裏の頑張り・努力の部分を深堀して見せてくれたらさらに感動を得られると思う。

*よく見ているが、感動的かつ迫力のある番組の流れにいつも圧倒される。

*今回もらったサンプルのエピソードも、興味深く最後まで全挑戦者の姿を楽しめた。

*全編が素晴らしい。

*各審査員も、単なる審査員ではなく素晴らしいエンターテイナーで人間性も素晴らしい。

*会場全体が一体になるところも素晴らしい。

*これまで日本人の挑戦者はいたのだろうか？三味線奏者が出たような記憶があるが…。

→日本人挑戦者も出場したことがある。

*各挑戦者を見ていると、これが単なるエンタメ番組ではなく社会的意義を持つ番組だと感じた。

*挑戦者たちのバックグラウンドを見ると、あらためてこの番組が社会へ持つ目が素晴らしいと感じた。

- * さすが良く練られたエンターテイメント番組で、結局最後まで拝見。最初の豚の登場と審査員の素直な反応に、まずは引き込まれ笑いから始まった。
- * 挑戦者たちの背景を短時間でよく表しており、ステージの裏側も丁寧に追っている。予選突破の組だけではなく、落ちていくレベルもあるのが楽しめる。
- * 毎回出演者の外見と技のギャップが面白い。37年間も無実の罪で収監された人やラテンの双子の声量、ラップ、路上生活者の合唱…とそれぞれ大変レベルが高いことも番組を支える要素。
- * それぞれの人生を見る審査員や観客の目が暖かく、視聴者も一緒に引き込まれて最後まで楽しめる。
- * 有事の際にエンタメは無力化するのか…。これは常に突きつけられてきた難題ではあるが、この番組を見ることで、胸を張って「NO」と言い切れる。
- * 豚のショータイム、インドの超高速サルサダンス、警官2人組の音楽デュオ…多種多様なエンタメショーを見るたびに涙が溢れた。
- * 挑戦者たちのバックボーンにスポットを当てている点も、より深みを増す効果を生んでいる。
- * コロナが終結した暁には、皆が一体となり、思う存分エンタメを楽しむ空間を体感したいと思わせる“希望”のようなコンテンツ。
- * 挑戦者と審査員との対話によって浮き彫りになってくるそれぞれの人生が感動的。

- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和3年7月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：
令和3年9月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上